

糖尿病透析患者におけるインスリンから
DPP-4 阻害薬リナグリプチンへの切り替えと限界
- 皮下連続式グルコース測定 (CGM) による評価 -

長崎人病院

○小嶺真耶 中島ゆかり 矢野未来 江藤りか 宮崎健一 李嘉明 原田孝司
橋口純一郎 船越哲

【目的】

インスリン治療中の糖尿病透析患者において、DPP-4 阻害薬リナグリプチン単剤に切り替えが可能か検討する。

【対象および方法】

当院外来通院中のインスリン治療中の維持透析患者で、原則として①投与インスリン量 $<15\text{U}$ 、②空腹時 CPR $>5.0\mu\text{U/mL}$ 、③併用の糖尿病治療薬なし、を満たす7例において、患者への十分な IC と同意を得た後に経口リナグリプチン 5mg に切り替え、切り替え前後の CGM (Continuous Glucose Monitoring 皮下連続式グルコース測定) にて血糖 profile を測定する。

【結果】

7 症例全例で、インスリン投与時の HbA1c $6.6\pm 1.6\%$ からリナグリプチン 5mg 切り替え後の HbA1c $6.1\pm 2.0\%$ と変化はなかった。また、血糖変動スコア MAGE (Mean Amplitude Glucose Excursions) は 78.0 ± 29.0 から 59.0 ± 22.0 と、低下する傾向にあったが変化はなかった。低血糖はみられなかった。

【考察】

比較的少量のインスリン治療を受けている糖尿病透析患者 7 例において、インスリンからリナグリプチンの切り替えが安全に可能であった。切り替え後の MAGE 値に変化はなく、今回の検討ではリナグリプチン単剤では血糖変動を安定化する作用は認められなかった。